

	傾向と対策			受験対策
	出題数	出題傾向	難易度	
化学基礎	40問前後である。	基本的な知識を問う問題である。いずれも大問4題であり、高校化学の教科書「化学基礎」の理解が求められる。	出題はいずれも教科書を基準とした知識を問うものである。	化学基礎の全範囲とし、教科書の本文だけでなく化学式や化学反応式なども理解し、「発展」「考察」「コラム」なども学習しておくこと。
生物基礎	40問前後である。	基本的な知識を問う問題である。いずれも大問4題であり、高校生物の教科書「生物基礎」の理解が求められる。		生物基礎の全範囲とし、教科書の本文だけでなく実験の図表や計算方法も理解し、「発展」「考察」「コラム」なども学習しておくこと。
小論文	1200字から1400字程度の文章(課題文)を読み、それについて要約し、要約をふまえて意見を書くという形式が続いている。「要約」も「意見」も400字以内。一般的な内容の解説文・論説・エッセー等が課題文として出題される。詩や小説は小論文の課題文という性質上、出題されていない。課題文そのものは新聞記事など、平易なものが多い。			「要約」は、客観的に、文章の一部分にとらわれず、全体をまとめることが要求される。一部分にとらわれると「要約」にならない。そのために文章の段落(パラグラフ)ごとにまとめる練習が必要。新聞の解説的な記事、論説などを対象に練習してみよう。一つの段落を一つの文にまとめるような練習が効果的だろう。「意見」は「要約」をふまえて書く。意見そのものの是非を問うことはないが、どのような意見であっても、課題文の内容をきちんと理解し、論理的に書くことが必要。短い時間で自分の意見をまとめなくてはならないので、過去問を使って練習しておこう。 「要約」でも「意見」でも、 ①段落分けをすること、 ②文体を統一する(なるべく「である」体で書く)、 ③一つ一つの文の長さを短くすること(50字以上の長い文は、わかりにくくなる)、 ④原稿用紙の正しい使い方を守ることなどに気をつけよう。
※一般選抜A～Cにおいて人文・人間発達で課される内容のもの。				